

蔵出しお宝ニュース

— 第 26 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長く眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

珠算史研究学会の皆様 ご来館

平成 25 年 8 月 28 日（水）、全国に残っているそろばんを調査・研究しておられる珠算史研究学会の 4 名がはるばる千葉県からご来館くださいました。当館所蔵のそろばんを拝見したいとご連絡いただきおりましたので用意をしておきましたところ、所蔵資料のうち、江戸時代の広島城下で作られていた「芸州そろばん」が 2 台あることが判明しました。全国的に島根県の雲州そろばんや兵庫県小野市の播州そろばんが有名ですが、広島でもそろばんが作られていたことに驚きました。芸州そろばんの特徴については裏面に記載いたします。



当館所蔵の芸州そろばんのうち、1 台は裏に「藝州 広島住志保屋小八作」の在銘で、大きさは縦 10.6 cm、横 46.8 cm、奥行 3 cm です。上 1 玉、下 5 玉、23 桁という大変立派なものです。会長さんによれば「だいたいは“鹽（塩）屋”と銘が入っているが、“志保屋”銘のものは初見。文化文政期に作られたもので、そろばん資料の横綱級です。」とのことでした。もう 1 台は幕末期に作られたもので、大きさは縦 8.6 cm、横 21 cm、奥行 2.4 cm です。上 1 玉、下 5 玉、13 桁の小ぶりなそろばんです。

江戸時代の三原は広島藩の領内ですから、広島城下で作られたものが持ち込まれたのではないかと思います。2 階の商人道具を紹介した場所に芸州そろばんも近日中に展示したいと思えます。

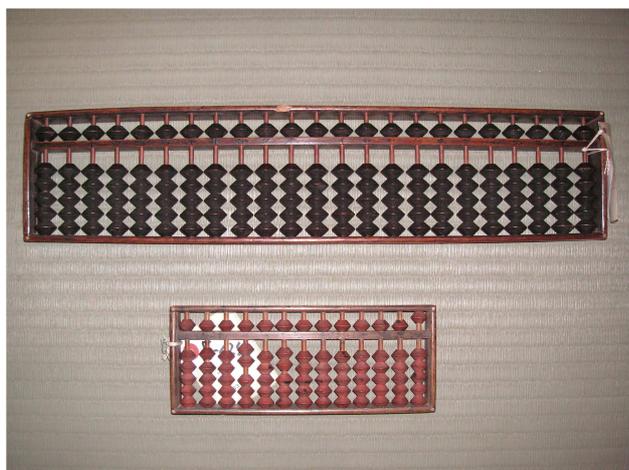
（左上）調査をされる珠算史研究学会の皆さん

（左下）当館所蔵の芸州そろばん

写真ではわかりにくいですが、梁のはり部分に銘があります。



資料館マメ知識 「芸州そろばん」とは？



(上) 当館所蔵の芸州そろばん

芸州そろばんは例外を除き、一般的には裏板・裏小板がなく、その代わりに玉を通すひごのうち、そろばんの中心、あるいは3等分した所を上下枠に貫通させ、頑丈にしています。貫通した穴には板が割れないように鳩目(はとめ)を付けているのが特徴です。裏板がないため、大きいものでも軽量です。

また、梁の裏に漆(うるし)で記された銘を見れば判断がつかます。

芸州そろばんについては残されている文献が少ないようですが、当館に2台所蔵しているところから、今後はできるかぎり情報を集め、発信していきたいと思います。

おき どこ しゅん じゅう 置 床 春 秋



掛物 村上 一笑 筆

水墨画賛

村上一笑〔明治13(1880)年～昭和13(1938)年〕は三原市田野浦にある雙照院の14世住職です。

背景に佐木島が描かれています。

花入 魚籠

花 季のもの

「御調八幡宮と三原市の文化財展」連携事業

特別展示① 和気広虫清麻呂姉弟再会の図

世良 正 作

特別展示② 御調八幡宮拝殿天井絵写真パネル

期間：平成25年9月9日(月)～10月6日(日)

場所：三原市立中央図書館 2階 展示ケース

入 場 無 料

問い合わせ：三原市立中央図書館

TEL0848-62-3225

主催：三原市立中央図書館

三原市中央公民館野鳥観察教室

協力：御調八幡宮・みはらアーカイブス

発行 平成25(2013)年 9月26日

〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。